

# サンゴ礁に迫る危機

## サンゴ礁の役割

多種多様な生物が暮らすサンゴ礁には豊富な魚介類が生息し、古くから人類はこの海を生活の糧を得る場として利用してきました。色鮮やかな魚たちがサンゴの森のなかを群れ泳ぐ姿は美しく、近年では観光資源としても大いに活用されています。また、生物多様性の宝庫であるサンゴ礁の海は、子どもたちが自然について学ぶ教育の場としても適しており、研究者にとっても謎が多い魅力的な場所です。さらにサンゴがつくり出す自然の防波堤は、大きな波から島やそこで暮らす人びとの生活を守り続けてくれています。

## 何百年も生き続けるサンゴ

サンゴの体内に共生する褐虫藻は光合成をしています。そしてサンゴは、この褐虫藻がつくる養分を得て生息しています。このため、サンゴは太陽の光が十分に届くような、浅く、透明度の高い海でなければ生きていかれません。

淡水では生きられないため、サンゴは大量の淡水が流入するような環境には生息しません。しかし、川などを通して陸上の森やマングローブ林からの栄養分が供給されるような場所では、サンゴの生育がいいことも知られ

ています。生育する適正水温は、25～28度。このような条件がすべて揃うと、サンゴは何百年と生き続けることができるといわれています。



シュノーケリングでサンゴ礁の海を楽しむ

サンゴ礁で生き物の観察



直径が5 m以上もあるアオサンゴの群体。

## 2040年 サンゴ礁が消える？！

ところが今、サンゴは危機的な状況にあると考えられています。

過度な土地の利用・開発による土砂の流入、生活排水などによる海洋汚染は、サンゴが生きていくために必要な透明度の高い海を濁らせてしまいます。近年では、サンゴを餌とするオニヒトデの大発生が頻繁に起き、サンゴが食い尽くされて、壊滅的な被害を受けた海域もあります。

そして今、最大の問題となっているのが海水温の上昇によるサンゴの白化現象です。沖縄をはじめとする世界のサンゴ礁海域で、夏になるとサンゴにとっての適性海水温を大幅に上回る、30度を超える日が年ごとに多くなり、大規模な白化が起こるようになってきました。これには地球温暖化が影響していると考えられ、このような状況が続くと、2040年までに地球上のサンゴが絶滅するとさえいわれています。

サンゴが死んでしまった海には、生きものたちに養分を提供するものがなく、透明度だけが低い“砂漠の海”がうまれます。やがて魚や多くの生物も姿を消し、海のアオアシスは消滅してしまうでしょう。そして、これはサンゴ礁域の問題だけでなく、温かい海で産まれる多くの生物の消失は、海産資源の減少だけにとどまらず、自然

界のバランスの崩れに拍車をかけ、さらなる問題を引き起こすと予想されます。

人類の生活が便利になるのに対し、海面下のサンゴは日々大きなストレスにさらされ続けています。美しいサンゴ礁の海を後世に残していくために、その恩恵を未来に引き継ぐために、私たちは自分たちの暮らし方をもう一度、見つめ直すことが大切なのです。



島のまわりに発達したサンゴ礁は、自然の防波堤

### 褐虫藻を失って、サンゴの骨が見えている！

「サンゴの白化」とは、サンゴが褐虫藻を失って透明になり、白い骨が透けて見えている状態をいいます。このような状況が1か月近く続くと、サンゴは栄養が足りなくなり、やがて死んでしまいます。

白化の原因は高水温や低水温、低塩分濃度などによるストレスです。近年では地球温暖化が原因と思われる海水温の上昇により、世界中の多くのサンゴが白化し、そして死滅しています。



### サンゴの天敵！ オニヒトデ

オニヒトデはサンゴ礁に生息するヒトデの仲間。毒のある刺をもち、人も触れると刺されることがあります。刺されると、激しい痛みを襲われます。

主にサンゴを餌とし、オニヒトデが大発生すると、その海域のサンゴはあっという間に食い尽くされてしまいます。大発生の引き金の一つとして考えられるのが、生活排水などによる海の富栄養化。ここにも人間生活の影がみられます。



写真：大堀健司